

日本農業教育学会 『栽培・飼育教材開発コンクール』 2021年度（第3回）募集要項

主催 日本農業教育学会

【趣旨】

農業は、作物・家畜を含めた自然に働きかけて、食料やエネルギー源をはじめとする「生きる糧」を供給しながら、国土保全等を含む様々な多面的な機能も有するという、人間にとって最も基本となる重要な営みです。それを学ぶ農業教育の意義はたいへん大きいといえるでしょう。すなわち、幼児教育や小学校生活科では、子どもたちの成長・人格形成の基本にかかわる重要な意義があります。さらに、小中学校の社会科・理科、中学校技術科では、農業の意義、植物栽培・動物飼育に関する基礎的な知識理解と農業技術の基礎を学ぶ意義があります。さらに、高等学校農業科では日本・世界の農業の将来を担う人材の育成としての意義、特別支援教育では生きものを育てる体験を通して広く多くの学びを得ることができる意義があると考えられます。

このような多面的な意義をもつ農業教育における栽培・飼育に関する教材の開発は、学会としての重要な役割であり、有効な教材をコンテストという形で評価し共有・普遍化することができれば、教材の深化、ひいては農業教育の発展と日本・世界の農業の未来の形成につながるものと確信します。よって、ここに『栽培・飼育教材開発コンクール』を実施するものです。

多数の応募をお待ちしています。

【対象者】

幼児教育・保育施設、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、農業に関連する専門学校・大学の教員

【応募方法】

教材に関する説明をわかりやすく記載した原稿とし、実践方法と成果についての内容を含むものとする（「応募様式」に沿って作成してください。Word形式）。

教材の写真や図があれば原稿内に掲載、他に、動画・教材ソフトがあればファイルの形式で添付（5MB以下、それ以上であればファイル転送サービスを用いて別送）する。

【部門と課題】

以下の2つの部門を設けます。

①人格形成・知識理解部門（子どもの人格形成・発達や、基礎的知識の習得に関する教育）

・・・主に幼児教育・保育施設、小学校、中学校、特別支援学校

②農業技術・農業人材育成部門（農業に関わる専門的技術・人材の育成に関する教育）

・・・主に中学校、高等学校、特別支援学校、農業に関連する専門学校・大学

部門ごとの教材テーマは自由。Webサイトに公開する応募様式に従って作成してください。

（教科は問いません）

内容について以下の点を留意ください。それ以外の取り組みは、このコンクールの評価対象となりません。

1. 「農業教育」を目的としたものであること。
2. 「教材」の開発に関するものであること。

【応募期間】

2021年12月1日(水)～2022年1月10日(月・祝)

【審査】

審査委員長：平尾健二（学会副会長・福岡教育大学）

審査委員：竹村久生（浜松市緑化推進センター）、勝川健三（弘前大学教育学部）、田中大介（農研機構遺伝資源センター）、門脇正行（島根大学生物資源科学部）、浅野陽樹（鹿児島大学教育学部）

【審査基準】

審査基準は、11月初旬に学会 Web サイトに公開する応募様式に記載の通りです。

【審査結果】

2022年2月下旬に電子メールで通知

※希望者には、審査員より教材の良い点、教材開発向上の視点等のコメントをお送りします。

【表彰】

部門ごとに最優秀賞および優秀賞を日本農業教育学会長が表彰し、受賞者には表彰状および記念品を贈呈します。なお、受賞作品は日本農業教育学会誌に掲載されます。

【応募先】

E-mail kyozei@agriedu.jp

日本農業教育学会教材開発コンクール事務局

【問い合わせ先】

鹿児島大学教育学部技術科 浅野陽樹

E-mail asano@edu.kagoshima-u.ac.jp